



# 月刊 千葉動力車

## カット給暴 物を言えば

### 法を守らないJRに規則這う資格なし

七月二十八日、四月期定期昇給カットおよび夏季手当の減額攻撃について、その根拠の解明と回復措置を求めた団体交渉が開催された。

今期の動力車組合員に対する定期昇給カットは二十七名、夏季手当減額は五十七名であり、この間のカット攻撃と比べても極めて多数にのぼっている。

JR当局は、明らかに動力車絶滅攻撃の一環として、ありとあらゆる場面で、動力車組合員に対する卑劣極まりない屈服強要、差別的徹底的強化をおこなっている。

われわれは、自らの意に従わない労働者・労働組合は、あくまでもいためつけ、叩きのめして、その存在すら抹殺しようとするこの間の攻撃を断じて許す訳にはいかない。

団交の席上明らかにされた定昇、夏季手当カットの理由のなかで今回際立っていることは「反発発言」「暴言」などと称して当局の命令に一言でも意をとなえた者がそれを根拠にのきなみカットされていることである。

まさに、口をひらけばカット、奴隷のごとく当局にひれふ者以外は一切許さないとする攻撃である。

いくつかの例をあげれば次のとおりである。

● 組合バッチ着用について注意したところ「地労委でもバッチは正当だ」という判断が出ている」といった。(反発、服装違反)

● 組合マニク入りのネクタイピン着用で「厳重注意」を発令したところ「厳注には納得がいかない」と答えた。(反発)

● 乗務委員室のカーテンを閉めるように注意したところ「カーテンを閉めた方が運転しやすい」と言った。(反発)

● 白いクツをはいていたので注意したら「夏はこの方がいいんだ」と反発した。

● 事故で乗務停止のさいに「いつまでやるのか事故とアゴヒモは関係ない」と言った。(反発)

● 組合費の徴収は認めないとの注意を無視し組合費を払った。(反発)

● 指差かん呼の音が小さかった(乗務態度不良)等……:まさしくJRの職場は監獄と見間違うばかりの状態である。否、監獄でもこれほどひどくはない。管理者にひと言口を聞いたからといってカット、声が小さいからといってカットかと思うと「駅長が面談したさい黙っていた」としてカッ

トされている者もいるのだ。

組合費をはらったからと言ってはカットである。JR当局は、「JRの職員は意志を持つな」「口を聞くな」「絶対服従だ」というのだ。

これでは人間であることとをやめると言っているのと同じことだ。

JR総連革マルと結託したJRはついにこまでいきついたのである。しかし、JRの異常な強権的支配体制がいよいよ末期症状をしめしていることに他ならない。「JR体制」を打倒しよう。

### 地労委給予科生運転士登用差別事件 登用は年次順に行なへ

七月二四日

七月二四日、千葉地労委において、予科生運転士登用差別事件の第二回調査が開催された。

国鉄・JR当局は、国鉄時代、一九七七年以降五年にわたり、「運転士として登用するため」に採用された予科生(ドライバークース)を分割・

民営化のドサクサにまぎれ一九八〇年採用以降の(一般採運転士合格者も含む)を運転士に登用しないばかりか、八二年採用者に対しては、「ハンドル見習い」すら動力車組合員に対しては差別し、果ては、昨年の一

月には、JR総連のみ運転士に登用するという不

とをやるかと言っているのと同じことだ。

JR総連革マルと結託したJRはついにこまでいきついたのである。しかし、JRの異常な強権的支配体制がいよいよ末期症状をしめしていることに他ならない。「JR体制」を打倒しよう。

当差別を強行した。第二回調査では、当局は、「国鉄とJRには同一性はない」との主張を行ってきた。

すでに、千葉地労委では、「清算事業団・JR不採用事件において、その実質的同一性は認定されているにもかかわらず、本差別事件の具体的反論(しかも、事実と違う)は、ごく一部しかふれず調査の進行を遅らせているのだ。

今後、まだまだJRのコジツケの主張が予想される。

八〇年〜八二年採用予科生を先頭に傍聴闘争の強化をかちとろう!

### 別抗議集会に 寄せられたメッセージ

- 高槻(大阪) DSD 労組
- 三多摩労組交流センター
- 準備会、病院反戦(福岡)
- 福島県実行委員会、大津市・福岡さん、北富士忍草母の会、全学連・反戦北富士現地闘争団、関西新空港反対東灘住民の会、国労新潟有志一同、都会議員・長谷川英憲、婦人民主クラブ全国協議会、大阪市立大学・志全自治治会、京大熊野寮自治会書記局、全通愛媛松山支部有志一同、長浜(呉)中学校分会有志、神奈川支援共闘会議、三里塚闘争会館、福島県反戦青年委、九州西部運輸労組小倉分会、委員長福岡主税、国鉄西日本労組、愛知労組交流センター、篠原訴訟支援共闘会議(広島)、都留文科大生協
- 労組、広大生協労組、委員長長貴田康博、動力西日本北陸支部、富山労組(活動家)交流会、北陸支部リコー支部、委員長志浦 彬、(敬称略、順不動)